

じつは「新型コロナウイルス」の流行によって「うつ病」が2倍以上に増加していた…その「意外なワケ」

12/13(金)現代ビジネス

YouTube ブルーバックスチャンネルに、『疲労とはなにか すべてはウイルスが知っていた』の著者・近藤一博さんが出演！

複雑な「疲労のメカニズム」をわかりやすく描き、第40回講談社科学出版賞を受賞した本作について語っています。

あなたが疲れを感じている時、体の中では何が起きているのか？

知られざる「疲れの正体」に驚くこと間違いなし...！必見の内容です！

【疲れの原因とは？】世界の疲労研究をリードする第一人者が教える「疲労の正体」【近藤一博】



そこで今回は近藤先生に感謝を込めて『疲労とはなにか すべてはウイルスが知っていた』の一部を特別に1ヶ月間限定公開します！是非Youtubeとあわせてお楽しみください！

2023年に日本人10万人を対象に実施した調査によると、じつに78.5%の人が「疲れている」と答えたという。だが欧米では、「疲れているのに働く」ことは自己管理ができないだらしない行為と見なされるため、疲労の科学的な研究は軽視されてきた。「疲労」が美德とされ、お互いを「お疲れさま」と称えあう特異な国だからこそ、日本の疲労研究は世界のトップを走っている。その日本で疲労研究をリードする著者が、数々のノーベル

賞級の最新研究をなしとげて見えてきた、疲労の驚くべき実像とは。

*本記事は、近藤一博『疲労とはなにか すべてはウイルスが知っていた』（講談社ブルーバックス）を抜粋、編集したものです。

新型コロナウイルス後遺症と脳の炎症

新型コロナウイルス感染症は、中国の武漢から始まったSARS-CoV-2というウイルスの感染が世界中に広がり、急性感染時の肺炎などにより膨大な数の死者を出した呼吸器疾患です。

このウイルスによる急性感染症は、「COVID-19」と名づけられました。

本書を執筆している現在、COVID-19自体は、ワクチンの早期実用化、各国の感染対策、ウ

ウイルスそのものの弱毒化などによって、収束傾向にあります。

しかし、残された災厄としていま、新型コロナ後遺症が世界的な大問題となっています。2023年8月時点でその患者数は、日本で300万人、米国で1700万人、世界では数億人とされているのです。

新型コロナウイルスの流行によって、うつ病患者もそれまでの2倍以上に増加しているといわれています。新型コロナ後遺症という疾患概念が確立する以前には、このうつ病の増加は、感染対策のために人の交流が妨げられていることがおもな原因ではないかと考えられていました。しかし実際には、新型コロナ後遺症によるうつ病が、相当数含まれている可能性があるのです。

ウイルス学の常識から外れた現象

新型コロナ後遺症で高頻度に出現し、患者の生活の質を著しく低下させる症状としては、倦怠感、うつ症状、ブレインフォグ(記憶力や集中力の低下)があります。これらの症状によって、自殺者や失業者が著しく増加していることから、大きな社会問題ともなっています。

ご覧になっておわかりのように、これらの症状はいずれも脳神経の障害によるものと考えられます。このことから、新型コロナウイルス後遺症は脳の炎症が関係しているのではないかと考えられました。新型コロナウイルスでは急性感染のときから、脳の炎症によると考えられる症状は出現します。

このため、COVID-19 や新型コロナ後遺症で亡くなった患者の脳の研究が世界各国で行われるようになりました。その大きな目的は、新型コロナウイルスはヒトの脳で増殖するのかを、明らかにすることでした。

一般的にウイルス感染の際に、脳の炎症が原因と考えられる強い頭痛などがある場合、脳内でウイルスが増殖していれば「脳炎」、ウイルスが増殖していなければ「脳症」と呼んで区別しています。なお「脳内炎症」という言葉には、脳炎も脳症も含まれます。

しかし、じつはその区別は、新型コロナウイルス出現以前には、それほど厳密になされていたわけではありませんでした。たとえばインフルエンザの場合、脳の症状は「インフルエンザ脳症」と呼ばれます。インフルエンザウイルスが脳の中では増殖していないということですが、じつはインフルエンザ脳症患者の脳はそれほど多く調べられたわけではなく、脳でウイルスが増えていないのに脳に炎症が生じるメカニズムについても、あまり研究されてこなかったのです。「本当はインフルエンザ脳症でも、少しは脳でウイルスが増えているのだろう」と、たかをくくっていたウイルス学者も多かったのではないかと思います。しかし、新型コロナウイルスの場合は、これまでとまったく事情が異なりました。

何より、死者数が桁違いです。インフルエンザウイルスでは、直近の新型インフルエンザのパンデミックによる死者数は世界で約2万人と発表されているのに対し、新型コロナウイルスは、公表されているものだけでも世界で700万人を超えています。そのため世界中が、新型コロナウイルスに感染した脳の研究に真剣に取り組まざるをえなくなったのです。その結果、わかったのは、新型コロナウイルスはヒトの脳ではまったく増殖していないということでした。

インフルエンザウイルスでは、「脳症」という名前はついてはいたものの、少しは脳の中でウイルスが増殖しているだろうと考えていた多くの研究者にとって、新型コロナウイルス

による脳内の炎症では脳でウイルスが増殖しないという現象は、これまでの常識がまちがっていたことを突きつけられるものでした。脳内の炎症は脳でウイルスが増殖するから生じる、と考えるのがウイルス学の常識だったからです。

その後も多くのグループがさらに研究に取り組みましたが、やはり、新型コロナウイルスがヒトの脳の中で増殖しているという証拠は得られませんでした。

それでは、新型コロナウイルスはどのようにして脳内で炎症を引き起こし、脳神経に障害をもたらすのでしょうか？ じつはその答えが、「病的疲労とは何か」という問題の答えにつながっていくことになるのです。

さらに連載記事<じつは「日本」が世界を一步リードしている「疲労の研究」…「疲労」と「疲労感」はちがう>では、ひきつづき疲労について詳しく解説しています